掘りさげた県政記事を

「広報くまもと」アンケートの集計結果

アンケート総数　四、二八四枚
回答総数　二七三枚
回答率　六・三七％
（昭和三四・九・二六現在）

× × ×

回答者を年令別にみると、五〇才代が最も多く七十七名、次が六〇代の五十四名、四〇代が四十七名、二〇代が三十九名、そのあとに三〇代、七〇代、一〇代八〇代と続いている。

職業別でみると、やはり農業が最も多く約三〇％、その次に多いのが教師、無職（主婦を含む）会社員、公務員、団体役職員等であるが、その他、商工業者、町内嘱託員、医師、僧侶、弁護士等あらゆる面にわたつている。

回答数が少いので、これだけで、広報くまもと読者層の姿であると断定することはできないが、大体の年令層と職業層は推定できるわけで、今後の編集にも大いに参考となろう。

八月号で読者の皆様にお願いしたアンケートは、その後熱心な回答が寄せられています。

回答率が低かつたのは残念でしたが、御希望や御意見など、県政に対する深い関心と、広報くまもとに対する愛情のあふれるものばかりでした。

広報くまもとをくわしく読んでいるかどうか、ためになるかどうかの問に対しては、

くわしく読んでいる……八十六％
ためになる……九十六％

という回答となつてあらわれ、係員一同責任の重大さを痛感した。

多い頁数増加の注文

改善すべき点では、頁数をふやせという注文が七〇％。写真をふやせというのが五〇％で今のまゝでよいというのが半々。文章は九〇％が現在程度でよいという結果になつている。頁数の増加は、経費の都合で、直ちに実施するというわけにもゆかないが、紙質をさげてもよいから頁数をふやせという要望も少くなかつた。

どんな記事が興味深いかという事は、発行者として最も知りたい点であるが、これまでの記事では、やはり解説記事がトップ、次が地方紹介記事、写真の頁、皆さんの質問箱、その他の順になつている。

望まれる解説記事
―地方紹介や農村問題も―

今後はどんな記事を望むかという問でも、県政の解説や紹介の希望が最も多く県の重点施策や新規事業に対する関心の強さを示している。これは殆んど四〇才代から六〇才代の方からのもの。

地方紹介記事がこれに次ぎ、町づくり村づくりの有様、青年団や婦人会、4Hクラブの活動状況、進歩した地方の営農状況等の現地探訪記が喜ばれている。これらの要望は五〇才代の方からが多く、二〇才代がこれに続いている。このなかには東京在住の県出身者や商業者も混つており、新しい町づくり村づくりには、多くの人々が関心を示している事がうかゞわれる。

農業問題や一般産業経済に対する要望も多く、特に四〇才から五〇才代がこれを強く望んでいる。内容は、農業政策全般から農業技術指導記事、或は県産業の重点施策、中小企業問題、特産品関係などが主であるが、なかには先生から、これらの他府県との比較を、という要望もある。

強い県庁への関心

このほか、五〇～七〇才代の方からは県議会関係の記事の要望が多く、又、県庁機構の解説、各部課の仕事の内容、県庁幹部の人物紹介等の要望もあつて、県庁そのものに対する関心の度合を示している。

その他では、観光・文化財関係記事の要望と、青少年向けの記事の要望がほゞ同数あり、続いて「県民の声」欄の新設国体関係の解説、教育問題、地方の明るい話題、文芸欄の新設、「知事の言葉」欄の新設やラジオの県政放送の再掲載等色々な要望があつたが、これからは御要望に沿つて、取材範囲を更に拡げるつもりである。

反省させられた問題点

その他の希望や意見では、編集者として真剣に考えなければならない色々な問題が投げかけられた。なかでも内容については「問題点を深く掘りさげたものを重点的に、具体的に」「華やかな面だけでなく苦労している面も」「誇大宣伝にならぬよう真実を」などあり、だが「少い頁数では断片的になるから毎号大きなテーマの特集号にしては如何」という意見も見えた。

表現については「編集には苦心のあとが見える」が「固くるしいから、週刊紙の様に見出しを面白く、活字を大きく、文章はわかりやすく」と懇切な注意もあつて大いに反省させられた。

写真は概ね好評で、頁数をふやして写真をふやせという希望や、写真グラフ式にしたらという意見、アート紙の表紙と裏表紙の夫々の内側は写真の頁にしたが良い、というがつた意見もある。

そのほか青年団に配布して、年に数回感想を求めては如何、配布については婦人層へのつながりを考慮せよ等参考となる意見が多かつた。

カバーは好評だが、郵送の際は折りたゝまずに送れという注文が少くなく、予算ともにらみ合せて研究の要がある。

又、週刊発行を希望される方や、各市町村に広報連絡員をおいて記事を広く求めたらどうかという意見もあつて、広報くまもとに対する皆様の積極的な御支援の気持もうかがえて、全く感激の至り。

× × ×

このほかにも、沢山の有益な御意見や御鞭韃がありましたが、紙面の都合ですべてを御報告する事ができないのは残念です。

今後は取材、編集、配布等実際面において、皆様の御希望や御意見を大いにとりいれ、真に皆様と県政を親しく結ぶ「広報くまもと」として育ててゆきたいと存じます。

なお、今後も御気づきの点はどし〳〵お寄せ下さるようお願いします。

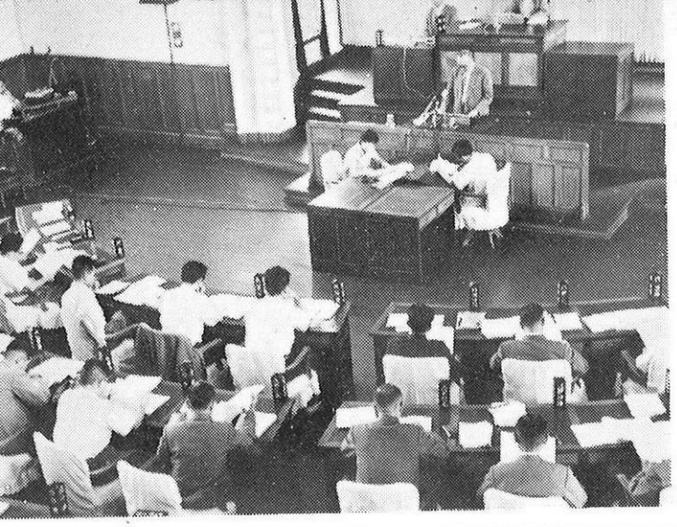
（広報課）

定例県議会終る

九月定例県議会は、九月十九日から同二十八日までひらかれました。

○才出五億二千七百万円、才入五億五千五百万円の追加更生予算案。

○母子家庭の児童等に対する身元保証に関する条例の制定案など二十六議案のほか、追加提出された台風十四号による天草地方の災害に対する応急的な復旧費として、一億一千三百六十二万二千円の予算案が審議可決されました。



★……写真は県議会状況

県庁職員の――減員計画について――

減員の実施……

県庁の職員は、現在四、八七五人であるが、このうち二百人を減らす計画を立て、八月の十二日から実施中である。

この計画が支障なく達成できれば、今年で四千二百万円、来年からは毎年九千八百万円、約一億円の人件費が節約できることになる。

職員構成の現状……

県庁職員の中には七十才以上の者が四人、六十才以上の者が七十七人（このようなことは他県には全く例がない。）もあるほか、一般に年令の多い者が多く、職員中高令者の占める比率は九州各県中最高となつている。

したがつて、職員一人当り平均給与額は、九州各県の中には福岡県その他の富裕県があるにもかかわらず、赤字の再建団体である本県が九州一位となつており本県が類似団体（人口財政規模が似かよつている県）にくらべて職員数が多いとされる。

退職計画の縮少……

このような事態は、はやくから予想されたところであるので、本県が赤字を出し再建団体となつた昭和三十一年に、毎年やめて頂く職員の数を割り当て、五年で合計五六二人の勧しよう退職という計画を定めた。

この計画は三十一年度と三十二年度はそのまゝ実施されたが昨年度は割当の一九八名の勧しよう退職を全然行わなかつたばかりでなく、逆に二〇一名もの職員を新に採用したので、今年は昨年のしわ寄せを受け三〇二人の人員整理を行わなければならないことになつたのである。

しかし、一挙に三百余名もの人員を整理することは、あまりにも与える影響が多いので、以後の県庁の人員配置に若干の不都合を生じ、また一方、県庁に就職を希望する方には甚だ気の毒な結果になるとは思いながら、新規採用を極度に抑制することにより整理人員の減少をはかる方針を立て、極力自治庁と折衝して、整理数を二百名に縮少することにしたのである。

勧しようの基準……

以上のように県庁の人員整理は心要最少限度のものであり、ぜひとも実施しなければならないものであるが、個々の退職者の選定に当つては、高令者、高給者に重点を置き、恩給等の受給資格をも考慮し、客観的に最も妥当と思われる基準を定め、順位の高い方から順次に二百余名の職員に勇退を願つたわけである。

なお、これらの勧しようにより退職される職員に対しては、退職金の十割増その他の優遇措置を講じている。

むすび……

現在のところ、勧しようを受け、退職の意志を表明された職員の数はまだ予定数に達していないが、これらの方々が県政の発展のために進んで計画に協力されることを強く希望するとゝもに、減員計画の終了後は人員の適正な再配分をはかり、県庁内を均衡のとれたぜい肉のない新たな体質に改善し、行政の効果を更に発揚したいと考えている。

（人事課）